

日本学術会議社会学委員会・社会学系コンソーシアム 共催シンポジウム 「現代の雇用危機を考える」

開催概要

- 2015年1月24日(土) 14時～17時
- 日本学術会議大講堂(乃木坂)
- 参加無料(事前申込不要)

【開催趣旨】

- いま、社会における雇用の枠組みが大きな転換期にさしかかっている。
- 非正規雇用があらゆる分野で正規雇用を駆逐しつつある。若者たちは、就活こそが人生の最終目標であるかのように懸命に走っている。しかし、就職してみれば、職場には多くの問題が山積しており、短期間で転職する若者は多い。高齢層は、年金財源を担保するためあって、定年延長という潮流の中にある。しかし、実際には再就職先は必ずしも保証されていない。
- 企業内における年功序列制を停止すると宣言する企業も増えつつある。また別の面では、少子化対策としての育児休暇やワークライフバランス、男女共同参画などを推進するといわれているが、実態はかなり覚束ない。本シンポジウムでは、こうした現代の雇用危機を多面的に論じ、未来に向かっての提言の足がかりとしたい。



プログラム

- 開会挨拶
 - 吉原直樹
 - 大妻女子大学教授・日本社会学会・社会学系コンソーシアム理事長・日本学術会議連携会員
- 報告
 - 宮本みち子
 - 「地方圏における若年不安定就業者～親からの自立をめぐる諸相」
 - 放送大学副学長・日本家族社会学会・日本学術会議連携会員
 - 渡辺 深
 - 「転職とネットワーク」
 - 上智大学教授・日本社会学会
 - 櫻村愛子
 - 「ネオリベリズム社会におけるマネジメント・イデオロギー」
 - 愛知大学教授・日本社会学理論学会
 - 今野晴貴
 - 「若年雇用の変容と政策・制度の機能不全 —— 労務管理戦略の変質を中心に」
 - 一橋大学大学院博士課程・NPO法人「POSSE」代表理事・日本労働社会学会
 - 西田亮介
 - 「無業社会の問題系——若年無業者とその支援の現状から」
 - 立命館大学特別招聘准教授・日本社会学会
- 討論者
 - 橋本健二
 - 早稲田大学教授・関東社会学会
 - 堅田香緒里
 - 法政大学専任講師・日本社会福祉学会
- オーガナイザー&司会
 - 遠藤 薫
 - 学習院大学教授・社会情報学会・日本学術会議会員
 - 小谷 敏
 - 大妻女子大学教授・日本社会史学会
- 閉会の挨拶
 - 友枝敏雄
 - 大阪大学教授・関西社会学会・日本学術会議会員